

「品質に対する取り組みの現状」は、どこに該当しますか？

【品質に対する取り組みレベル診断】

項		品質に対する取り組みの現状			
		1	2	3	4
A	品質に対する考え方	品質問題は顧客へ製品を提供している自社が悪いのではなく、作ったところの問題である。	顧客に製品を提供しているため品質について責任はあるが、品質に力をつける優先順位は低い。	大きな品質問題がでないようにしないといけないため、品質には最小限の力をかけることが必要である。	品質は企業の生命線であり、品質に対する意識はトップから従業員まで高い。
B	品質プロセス	品質に関するプロセスはない。	品質に関するプロセスはあるが、環境変化に合わせて見直しはされていない。またプロセスの強み・弱みの把握は必要ではない。	品質に関するプロセスはあるが、一部弱いところもあり見直しが必要である。またプロセスの強み・弱みの把握が必要だと考えている。	品質に関するプロセスは整備されており、強み・弱みも把握し、環境変化に応じて見直しもできている。
C	品質に関するリソース（専門家、設備等）	品質に関するリソースはコストが増加するだけで必要ない。	品質確保のためのリソースは必要であるが保有する余裕はない。一応、品質担当は設置している。	品質に関する組織・リソースはある程度保有しているが十分ではない。新しい分野に進出（新しい技術を使用）したが、その分野の品質に関する専門家が不足している。	品質に関する十分なリソースを保有している。また品質確保には投資が必要であり、計画的に行っている。
D	品質人材の育成	品質に関する教育は必要ない。	品質に関する教育はある程度必要だが、特に整備はしていない。	品質に関する人材育成が形骸化しており、品質教育を整備しないといけない。	品質に関する教育制度が整備され、計画的に人材が育成されている。
E	失敗コスト（社内・市場）削減への取り組み	失敗コストを把握する必要はなく、損失がでた時には、その都度、調達したところに請求すればいい。	失敗コストは把握していないが、どの位でているかは把握しないといけないと考えることがある。	失敗コストを把握しており（または把握し始めており）、削減の必要性を検討している（または検討したい）。	失敗コストを把握し、削減に向けた施策の取り組みを行って効果を上げ、利益向上に貢献している。また未然防止額も算出し、品質への投資効果を把握している。



品質に対する体力を向上させ、「利益向上」に繋げませんか？

富士通クオリティ・ラボがご支援します。